

第1回技術検討専門委員会で審議した内容の確認

資料1

1. 対策の基本的考え方

廃棄物層内部に硫化水素ガスの発生原因物質が多く含まれている部分が確認されるとともに、原因の一つである雨水が浸透しており、今後も継続して硫化水素ガス等の発生が予想されるほか、法面崩壊によるガスの流出が懸念されることから、周辺地域の安全安心を確保するため、将来にわたって周辺への影響を及ぼさないような恒久対策を実施する必要がある。

【第1段階】

- 現段階において、高濃度の硫化水素ガス等が発生していることから、恒久対策の実施に向け、硫化水素ガスの発生を抑制する。

【第2段階】

- 恒久対策として掘削、覆土、整形等を実施し、雨水の浸透、廃棄物の飛散流出、硫化水素ガスの発生等を防止する。

2. 対策方針

ガスの回収処理に着手したことにより、周辺環境への影響はみられないが、将来にわたって周辺環境への影響を防止し、周辺地域の安全安心を確保するため、硫化水素ガス等の発生を抑制する措置を講じる。

3. 対策目標

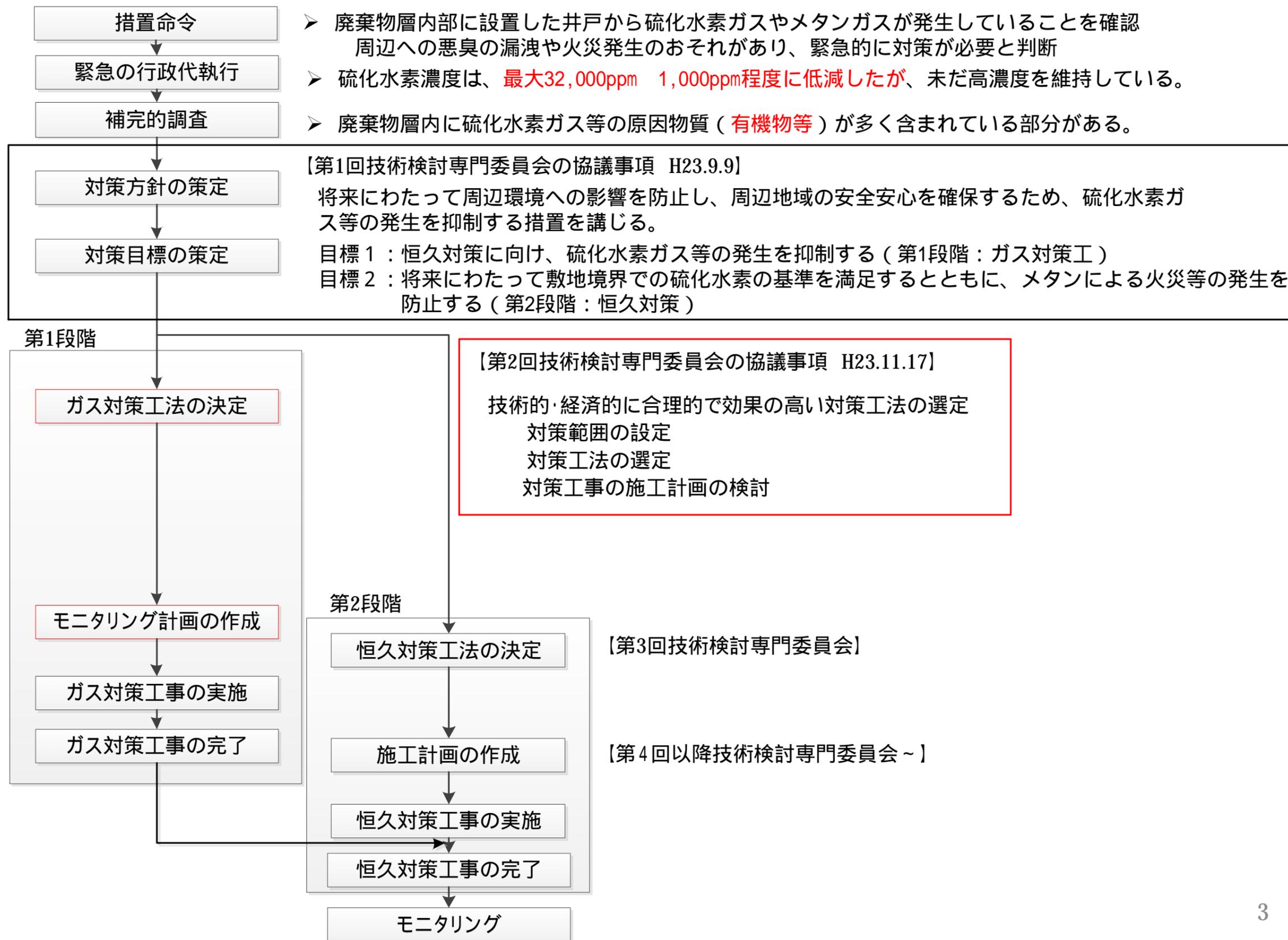
恒久対策に向け、硫化水素ガス等の発生を抑制する。
掘削整形や雨水浸透防止対策等を行い、硫化水素ガスの発生を抑制し、将来にわたって敷地境界での硫化水素の基準を満足するとともに、メタンガスによる火災等の発生を防止する。

なお、地下水等では一部環境基準を超過する物質があり、これらの物質のリスクを評価し、対応を検討する。

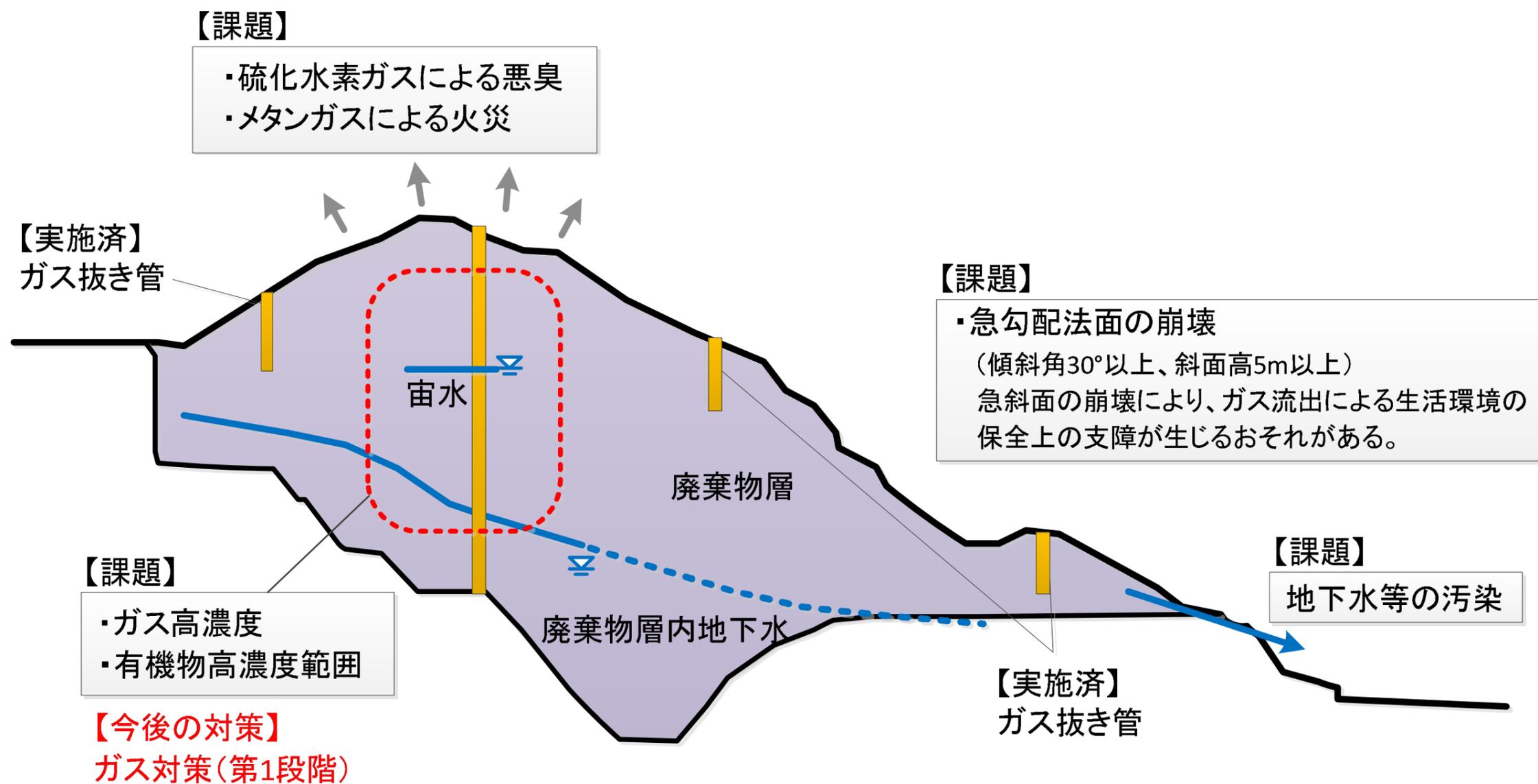
4. 第1回委員会での主な意見

	第1回委員会における指摘事項	対応方針
対策工	(1) 硫化水素ガスの発生抑制対策としては、今回比較検討を行った4つの技術が主な工法であると考えられる。 ・ドライフォグ、薬液注入、 スメルウェル、バイオプースター	硫化水素ガスの発生抑制対策工法の検討 前回提案の4案の詳細な情報を追加し、対策工法を選定する。
水質	(2) 当該事案の周辺の水質への影響を確認するため、現場及び周辺の河川等でイオン分析を実施してはどうか。	周辺水質への影響確認 イオン分析を行い、廃棄物由来の地下水影響範囲を検討する。
リスク評価	(3) 水質に係るリスク評価については、環境基準を超過している物質の原因が何であるか、環境基準との比較、生活環境保全上の観点から検討していく必要がある。	リスク評価の検討 原因や環境基準との比較、生活環境保全上の観点からリスク評価を行う。

5. 対策の進め方



6. 現状における課題の整理



<ガス抜き管措置>

行政代執行(H19~H20)

硫化水素濃度は、最大32,000ppm→1,000ppm以下に低減も、未だ高濃度を維持
廃棄物層内に硫化水素及びメタンガス発生源となる有機物が高濃度